

〔釈文〕

嘉永七甲寅年十一月本しらべ

聞書 東海道 南海道 国々大地震大つなみ

志州鳥羽

十一月四日朝五ツ時より大地震

二て所々崩同五日昼七ツ半時

より又々大地震と成候所へ

大津なみにて御家中六部

通り流レ町中も八部通崩或ハ流

二部通り残たる所ハ破損あり惣而

志摩一國無事成所一ヶ所もなく

誠ニく日本一の大あれ也

死人凡一万余とも相わからず

失人数しれず ゆり凡貳尺

(絵図)

紀州

同四日同刻より大地震の上大つなみ

二て川口流死人凡三百人余

黒江日高藤代辺ハ床より汐

三尺計り上り死人凡百五十人

崩家凡三百軒あまり也

残りたる所皆々はそんあり

尤町内くづれ所々沢山成事

かず不知其外一々筆二尺がたし

大地しん

四日朝五ツ時五日朝七ツ半時

同夜四ツ時同八ツ時六日五ツ時

同四ツ時なり

ゆり凡一尺五寸

勢州

同日同刻より大地震二て松坂

津白子神戸山田の辺

凡半崩破損の所かず不知

凡四五十人ヅゝ死人有よし

けか人多し

四日市

十一月朝五ツ時より大地震となり

家数凡五十軒余り同五日ひる

七ツ時より又々大地震となり大地割レ

土蔵八十ヶ所死人凡二百人

けが人数不知其近在十二ヶ村

半くづれ死人少々

ゆり一尺五寸 けが人多し

桑名

同日同刻より大地震の後大津浪

二て浜辺ミなく流れ大津辺まで

大さハぎけが人多し

播州

十一月四日朝五ツ時より大地しん

姫路御城下大はんくづれ残り

たる所はそん有死人凡百人余

けが人多し ゆり凡八寸

奥播州

加東郡栗野へん大地しん

二て四部通り崩るはそんの家数不知

其外在々皆々大坂同様なり

(絵図)

(絵図)

泉州 堺

十一月四日朝五ツ時大地震二て

処々崩れ同五日七ツ半時より

又々大地しん大つなみにて

新地茶町北嶋米市場

所々大つなみにて大にそんし

大道すし所々崩ル破損数不知

死人凡六十人けか人多し

其近在十五ヶ村所々崩大破損有

死人すくなしけか人多し ゆり凡六寸

崩たる橋の名爰ニ記

あづま橋 さかへはし 龍神橋

住吉橋 いさみ橋 相生ばし

新栄橋 新相生橋

ミなくおちる

但し是にもれたる国々ハ

大躰大坂同様の事也

十一月四日朝より八日夜迄

八十度のゆりなり

早飛脚二て申来り候由